

# 福島県いわき市平下高久方言の立ち上げ詞

大橋 純一

## I. はじめに

1. 調査対象地：いわき市は福島県の南東部に位置し、方言区画上はいわゆる浜道り地区の一角を占める。県内では最大の面積と人口を有すると共に、市街地の平を中心にその四方が海と山に囲まれるという特徴的な土地柄を有している。対象地の平下高久は、市街地より5 kmほど東方に寄った純農村地帯である。周辺では、近年、区画整備とそれに伴うニュータウン化が急速に推し進められているが、当域はそうした周囲の喧騒とは一線が画され、昔ながらの田園風景を残している。平成17年11月現在、世帯数38820、人口100345（いわき市平）。
2. 調査年月日：2005年9月25日、10月5日 午後7時から午後9時まで
3. 話者：鈴木与三郎（昭和4年7月28日生）
4. 調査者・調査場所：大橋純一・話者宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. その他：①アクセントは、棒引きアクセント。高さの山に棒を引く。  
②話者のコメント、調査者の気づきは<>内に記した。

## II. 調査結果

### I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

#### (1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ドッコエシヨ。エツプダ シツペダ ネー ガ。どっこいしょ。一服しようじゃないか。

#### (2) どうれ。出かけることにしよう。

○オッコラシヨ。ソロソロ デダスツペダ ネー ガ。おっこらしょ。そろそろ出だそうじゃないか。<ドッコエシヨは腰を下ろす際に、オッコラシヨは腰を上げる際に発するかけ声。>

#### (3) よいこらしょ。とうとう山の天辺に着いた。

○イヤ イヤ。ヨーエデ ネガツタ ナ。トートー チョージョーサ ツエタ 子。いやいや。容易ではなかったな。とうとう頂上に着いたな。

#### (4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○アッ、シマツタ。アブネー ドゴダツタ 子。あっ、しまった。あぶないとこだったな。

#### (5) くわばらくわばら。恐ろしかった！

- クワバラ クワバラ。オッカネガッタ。くわばらくわばら。おっかなかった。<昔のお祖母さんの言い方。>
- (6)しめた！今度の魚は大きいぞ。  
○イヤッ、コレワ シメタ。デッケガッタ ゾ。いやっ、これはしめた。でっかかったぞ。
- (7)ままよ。飛び越えるしかない。  
○ソラ。トバネゲレバ。そら。飛ばなければ。
- (8)なにくそ！負けてなるものか。  
○コン チキショー！ マゲデ タマツ カー。こんちくしょう！負けてたまるか。
- (9)しめしめ！誰も気がついていない。  
○コレワ シメタ！ ダレモ キーツイテ ネー ゾ。これはしめた！誰も気がついてないぞ。
- (10)ちえっ。つまらないなあ。  
○オラ ヤダー。ソナ ゴドー ヤッテランネー。俺は嫌だ。そんなことやってられないな。
- (11)ちくしょう！仕返しをしてやる。  
○コン チキショー！ シカエシ スッカラ ナ。こんちくしょう！仕返しするからな。
- (12)くそっ！覚えている！  
○コン チキショー！ シカエシ シテ ヤッカラー！こんちくしょう！仕返ししてやるから。
- (13)おやおや、いったいどうしたの。  
○(名前を言って) ドー シタンダ。(名前を言って) どうしたんだ。
- (14)えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。  
○ホラ ミロ。オレワ コゴラデ エチバンノ チガラモジダッペ。ほらみろ。俺はこらで一番の力持ちだぞ。
- (15)はてな、ここはどこだろう？  
○アレー。コゴワ ドゴダッペ ナー。 ミジサ マヨッチャッデー。あれえ。ここはどこだろうなあ。道に迷ってしまって。

## II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

- (16)はい、承知いたしました。  
○アー ハエ。ワガリマシタ。ああ、はい。わかりました。<こういう改まった言い方はしない。>
- (17)はい。宜しゅうございます。  
○アー。エー ヨ。ああ。いいよ。<こういう改まった言い方はしない。>

(18) ええ、ここに居ます。

○アー。エダ ヨ。ああ。居たよ。

(19) んだ。私の傘です。

○ンー ンー。オレノダ。うん、うん。私のだ。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ンダ ンダ。オメーノ ユツテル ゴド ホントダ。そうだ。そうだ。おまえの言っていることは本当だ。

(21) ほいきた。おやすいご用です。

○アー。ソンドラ ヤル ヨ。ああ。それならやるよ。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○ソンドラ ヤッカラ。それならやるから。

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ヨシ。ソンドラ オレ ヤツテ ヤッカラー。よし。それなら俺がやってやるから。

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○ソンドラワ ソー キメツペ。それならばそう決めましょう。

(25) かつぱのへだ。簡単だ。

○ソンナノ アサメシメーノ シゴトダ。そんなの朝飯前の仕事だ。

(26) いえいえ、とんでもございません。

○ソンナ ゴド ネー。キー ツカワサン ナー。そんなことない。気を遣いなさんな。

(27) なんの、たいしたことではございません。

○チーニ。ターエシタ ゴド ナエ ワエ。なあに。たいしたことないわ。

(28) なあに、擦り傷ぐらい、すぐ治るさ。

○チーニ。ソレクレーノ ゴドー タエシタ ゴド ネー ヨ。カントダ。なあに。それくらいのことたいしたことないよ。簡単だ。

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○チンダ。ヨノ ヤロー。デダラメ エツデー！ 何だ。このやろう。出鱈目言って！

(30) いやはや、とんだ目に遭いました。

○イヤイヤー。ヨーエデ ナガッタ。いやいや。容易でなかった。

(31) へん、勝手にしやがれ。

○ワガタガデ ヤレ。カッテニ ヤッタ ホーガ エー。自分だけでやれ。勝手にやった方がいい。

(32) なめるんじゃねえよ。こいつ！

○バガニ スンナ。コノ ヤロー！ 馬鹿にすんな。このやろう！

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って！

○オメーデワ ハナシニ ナンネー。ウソバガリ ツイデ！ おまえでは話にならない！

嘘ばかりついて。

(34) だまらっしゃい。出鱈目ばかり言って！

○フザゲンジャ ネー。ヘデナシ ヤッテンジャ ネー コノー！ ふざけているんじゃない。出鱈目やってんじゃないこの！

(35) そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

○ソナニ ヨノ ナガ アメー モンデ ネー。そんなに世の中甘いものではない。

(36) うそもへちまもありやしねえ。我慢できねえ。

○ウソモ ヘジマモ アツ 万。コノ。嘘もへちまもあるか。この。

(37) 寝言は寝ていえ。このやろう。

○ネゴド フゲンデ ネー。コノ ヤロー。寝言ふくんじゃない。このやろう。

(38) あたりきしやりきのけつあな。当たり前だ！

○ソナノ ダレダッテ デギッペー。アダリメーダッペー！ そんなの誰だってできるだろう。当たり前だ！

(39) きみょうきてれつだ。それは変だ。

○チンダ ソナチ ハナシ ウソツバジデ ネー ガ。何だそんな話嘘っぱちじゃないか。

(40) ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○オー。タエシタ オヤコーコーナ ヤローダ。おう。たいした親孝行なやろうだ。

(41) まいったまいった。しかたがない。

○マエッタ ナー。コレワー。オレノ テオジダー。まいったなあ。これは。俺の手落ちだ。

### Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語関係を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○チョットー スミマセン。ヤグバワ ドゴデス 万。ちょっと。すみません。役場はどこですか。

(43) のうのう、旅の人。お立ち寄りください。

○オキヤグサン。ウジサ ハエッセ。お客さん。家に入ってください。

(44) ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○ホラ。ミデ ミロ。ムゴーサ コーエン アッペ。ほら。見てみる。向こうに公園があるだろ。

(45) やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

○オイ。ソナニ ハヤグ ドゴサ エグンダ？ おい。そんなに早くどこに行くんだ？

(46) よう、兄弟。これから何をするつもりだい？

○オイ。(名前)。コレガラ ナニ スンダ？ おい。(名前)。これから何をするのだ？

- (47) いざ。さらば。  
○イヤ、ド一モ。いや、どうも。
- (48) ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。  
○ド一ゾ ド一ゾ。ヤスンデ イッペー ヤッペデ ネー ガ。どうぞどうぞ。休んで一杯やろうじゃないか。
- (49) さて、そろそろ一服しませんか。  
○エツグ ヤッペデ ネー ガ。一服やろうじゃないか。
- (50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。  
○ホラ コラ。チョット ウルセー ド。ほらこら。ちょっとうるさいぞ。
- (51) おい、こら。万引きをしてはいけない。  
○ホラ コラ。マンビキ マデ ネ。ほらこら。万引きやるんじゃない。<声を荒げて言う。>
- (52) おどりゃあ。いい加減にしないか！  
○コノ ヤロー。エーカゲン シロ。このやろう。いい加減にしろ。<さらに声を荒げる。時に手をあげて言う。>
- (53) おのれ、裏切りやがったな。  
○オヌー。チンダ。ウツ ツイタンデ ネー ガ。おまえ。何だ。嘘ついたんじゃないか。
- (54) どっこい。その手には乗らない。  
○ソナン ゴド オラ シラネー ド一。そんなこと俺は知らないぞ。
- (55) どうだ、参ったか？  
○ド一ダ。マエツタ ガ？ どうだ。まいったか？
- (56) せいの、よいしょ！  
○サーノ ヨエ！ せいの、よい！
- (57) ようい、どん！  
○ヨ一エ ドン！ ようい、どん！
- (58) いっせいの、で！  
○サーノ ヨエ！ せいの、よい！
- (59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ！  
○サーノ エー！ ヨエシヨ ヨエシヨ。イマ ヒトガンバリダ。せいの、よい！ よいしょ、よいしょ。今ひとがんばりだ。
- (60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。  
○サーノ エー！ ウンドゴコシヨ。イマ ヒトガンバリダ。せいの、よい！ うんとこしょ。今ひとがんばりだ。
- (61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

- サーノ エー！ ヨエシヨ、マツリダ、ワツシヨエ。せいの、よい！ よいしょ、祭り  
だわっしょい。
- (62)はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！あいこでしょ。  
○ジャンケン ポイ！ アエコデ シヨ。じゃんけんぽい！ あいこでしょ。
- (63)きをつけえ、まえへならえ、なおれ。  
○キョーツケー。 マエニー ナラエ。 ナオレ。きをつけ。まええならえ。なおれ。
- (64)きりつ、れい、ちやくせき。  
○キリツ。 レー。 チャグセキ。きりつ。れい。ちやくせき。
- (65)ばんざい、ばんざい。やった、やった！  
○バンザーエ。 バンザーエ。 ヤッタ。 ヤッタ！ ばんざあい。ばんざあい。やったやっ  
た！
- (66)えいえいおう。頑張るぞ。  
○オー。 ホラ エグベー。 おー。ほら行くぞ。
- (67)中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。  
○(名前)ノ タンジョービ エワツテ カンパエ。 オメデトー。(名前)の誕生日を  
祝って乾杯。おめでとう。
- (68)やっほう、やっほう。  
○ヤッホー。 ヤッホー。やっほう。やっほう。
- (69)ふれえ、ふれえ、白組。  
○フレー。 フレー。 シログミ。ふれえ。ふれえ。白組。
- (70)おにはそと、ふくはうち。  
○オニワー ソド。 フグワー ウジ。おにはそと。ふくはうち。 <「ふくはうち」のみ  
を言う場合もある。家ごとに異なる。 >
- (71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。  
○ナニ フザゲデンダー。 ソナ バガナ ゴド ヤッデンデ ネー。何ふざけている  
んだ。そんなばかなことやっているんじゃない。
- (72)それみたことか、わんぱく坊主。  
○ソレ エワネー ゴドデ アンメー。 コノ ヤロー。それ言わないことあるまい。こ  
のやろう。
- (73)ざまあ、みろ。いい気味だ。  
○ホラ ザマ ミロ。 ユー ゴド キガネーガラダ。ほらざまあみろ。言うことをきか  
ないからだ。
- (74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。  
○コン チキシヨ。 コノ ヘデナシナ ゴド エーヤグッテ。こんちくしょう。この  
いいかげん(出鱈目)なこと言いやがって。

(75)このやろう。どうしてくれようか。

○ナーンダッペ。コレ。シツコエ ナ。何だよ。これ。しつこな。

(76)たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○ジョーダンデ ネー。ソレサ コダワッテンデ ネー。冗談じゃない。それにこだわってんじゃない。

(77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○バガヤロー。エズマデモ ヘデナシナ ゴド エッテンデ ネー。ばかやろう。いつまでもいいかげんなこと言っているんじゃない。

(78)あなかま、静かにしなさい。

○ウツツアシー。アッチャ エッテロ。うるさい。あっちに行ってろ。

(79)しいいっ、静かにして！

○シー シー。シズカニ シズカニ。しいい。静かに静かに。＜手を下向きにしなごら。＞

(80)ちちんぷい、蛙、蛙、生き返れ。

○＜このような言葉・表現はない。＞

(81)あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アカンベー。オニサン コチラ。デノ ナル ホーエ。あかんべい。鬼さんこちら。手のなる方へ。

(82)あっぱれ、お見事。立派です。

○イヤー タエシタ モンダ ナー。ヨグ デギタ。いやあ、たいしたもんだなあ。よくできた。

(83)でかした、でかした。日本一。

○アー ヨガッタ。ヨガッタ。ニッポンエチ。ああ、よかった。よかった。日本一。

(84)しっけい！すみません。

○イヤ イヤ！ スミマセン。いやいや！ すみません。

(85)あばよ、達者でな。

○アー。マダ ネー。オゲンキデ ネー。ああ。またね。お元気でね。＜別れる相手によっても異なる。＞

### III. 総括 (まとめ)

①当方言の立ち上げ詞にはおおむね次のようなものがある。

イ. 複数 (類似) の表現形式を単一のそれに集約して言うもの

例) (8) (11) (12) (74) → コン チキショー

(21) (22) (23) (24) → ソンダラ(ワ)

(14) (44) (50) (51) (66) (73) → ホラ (ホラ)

ロ. 別表現で説明的に言うもの

例) (33)冗談じゃない。口から出任せを言って! → オメーデワ ハナジニ ナンネー。ウソバガリ ツイデ!

(35)そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。→ ソンナニ ヨア ナガアメー モンデ ㇿー。

(71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。→ ナニ フザゲデンダー。ソンチ バガナ ゴド ヤッテンデ ㇿー。

ハ. 共通語どおりに言うもの

例) (64)きりつ、れい、ちゃくせき。→ キリツ。レー。チャグセキ。

(68)やっほう、やっほう。→ ヤッホー。ヤッホー。

(70)おにはそと、ふくはうち。→ オニワー ソド。フグワー ウジ。

ニ. いわゆる俚言形で言うもの

例) (78)あなかま、静かにしなさい。→ ウツツアシー。アッチャ エツテロ。

ホ. 共通語に相当する表現形式を持たないもの

例) (5)くわばらくわばら → <昔のお祖母さんの言い方>

(80)ちちんぷいぷい → ϕ

- ②以上のうち、「ホ」に該当するのは、既にその言い方が古めかしくなり使われなくなったものか、当該の地に元々そのように言う習慣がないものかのどちらかである。
- ③「ニ」に該当するものはほとんどない。「ハ」も慣用的に用いられる号令や囃子ことばの類に多見され、どちらかと言えば使われる対象が限定されている。
- ④結果、当方言の立ち上げ詞は、そのほとんどが「イ」か「ロ」かによっている(ただし、以上の各々は必ずしも独立的に存立するとは限らず、例えば「ロ」でありかつ「イ」であるものや、「ハ」でありかつ「イ」であるものもある)。
- ⑤他方、対自・代者の別を問わず、当方言の立ち上げ詞には、自らの発話・行動を文字通り立ち上げるための契機として、一種のかけ声・間投詞的なものが多用される。アー、アレー、イヤッ、イヤー、イヤ イヤ、エー、オイ、オー、コノ、コラ、ソラ、ソレ、ホラ、ヨシなどがそれである。
- ⑥当方言の立ち上げ詞は、すなわち、⑤のようなものを基調としつつ、多くはその時々において説明的な物言いをしたり、単一の表現形式を複数(類似)のそれに適応させ単純化して言う(つまり④)ことを特徴とするものであると結論づけられる。

(おおはし じゅんいち いわき明星大学)